

時空の漂泊

(二〇一〇年十二月六日 第三十四号)

高橋 滋

広島便り

二〇一〇里山を歩こう(四)

身近な自然観察

佐伯の紅シジミ 五月五日(水)

佐伯の花上はながみの小屋は、ここ三日間、最高気温が二十五度を超える初夏日和ひよりである。川筋の林地の下刈りをご近所さんがやったので、森が明るくなった。

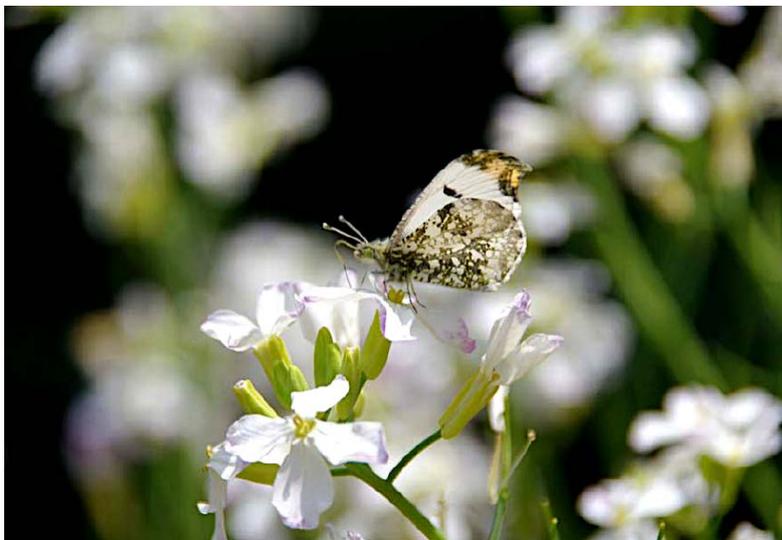


暖かさに誘われて、多くの蝶が飛来した。

ベニシジミ(紅小灰蝶)。数が多い。よく見ると深い色合いをしている。



サカハチチョウ（逆八蝶）。比較的珍しい。街中ではほとんど目にしない。ベニシジミと同じく、くっきりした色合いである。



ツマキチョウ（棲黄蝶）。写真に撮りたいと思っていた。モンシロチョウより一回り小さく、羽根の先がとがっていて、その部分の黄色がキチョウの黄色より少し橙色に近い。



モンキチョウ（紋黄蝶）。これも普段ほとんど見かけない蝶である。モンシロチョウに似ているが（飛んでいる時は分らない）、羽根のまわりにピンク色がかかっている。



トンボ（蜻蛉）も飛び始める。トンボの名前はよく分からない。これは「ミヤマカワトンボ」（深山河蜻蛉）のようだ。



今年の花の新顔はアマ（亜麻）。ベニバナアマ（紅花亜麻）の名で種を購入したが、コモンフラックスという原種に近いものようだ。リンシードオイル（亜麻仁油）を採ったり、織物の材料（リネン）になる有用植物である。欧州では牧場などに自生するらしい。ひよろひよろと伸びて、どうなるかと思ったが、頂上に可憐な花が咲いた。



ワスレナグサ（忘れな草）。この青もなかなかの色合いである。一つ一つの花は小さい。五〜九ミリ径の小さい五弁の花である。